

# Digital Camera 倶楽部

MAY 2019  
Vol.161

## 風薫る五月の空・・・

などと情景をあらわす言葉には日本語のきれいさ、奥深さが感じられます

その中で、いつも思っているのは、青と緑の表現です。

青と緑は混用されていると思います。

少し前まで、信号の青は緑色でした。最近では LED で文字通り青信号になりましたが、以前の正式名称は『緑信号』で、それを青信号と言う方が多くて規則を改正して『青信号』と呼ぶようになったのです。

青葉 青竹 青物 青菜 青草 青田 etc

など、緑色のものを青と表現することが沢山あります。

研究された方の結論は、

そもそも古い日本語において「青(あを)」は非常に範囲の広い色を指していて、一般には「黒と白の間」とされています。古典語の「あを」は狭く見ても現代語の「藍、緑、青」あたりの色をすべてカバーしています。これは古典語だけでなく現代語にも見られることで、実際には緑色をしているものに「青-」とついている語がたくさんあります。もちろん「みどり」も古典語から存在していますが、「あを」よりは指し示す範囲が狭かったようです。

一方で長く変化していない要素もあり、その一つが「青」と「緑」の混用だ。今回の共同研究では、平安以前の日本の和歌における青と緑の用法についても調査した。その結果、「あお」(正しくは「あを」)は明らかに青いものにも緑のものにも用いられ、「みどり」も同様であった。現在でも、日本語では信号機や若葉、野菜などを指して「青」と呼ぶことはあるが、これ以外の場合では青と緑は明らかに区別して使われる。青と緑が混合した一つの 카테고리 から別々の カテゴリ に分離する過程は、世界中の言語が発達の途上で必ず経過するポイントと考えられている。



懐かしい歌に青い山脈があり、皆さんも大いに歌われたことでしょう。

その歌詞の4番に

父も夢見た 母も見た  
旅路のはての その涯の  
青い山脈 みどりの谷へ  
旅をゆく  
若いわれらに 鐘が鳴る

和風総本家の決まり文句に 日本ていいなあ

本当に、にほん、日本語って いいですね・・・



吉川のページ

豊洲市場、葛飾柴又



豊洲市場前駅から環状2号線を望む、周辺はオリンピック関連工事の真最中

場外市場は大変な混雑です



柴又帝釈天の二天門  
見事な彫刻です



フーテンの寅  
さんの名場面  
寅さんが旅に  
出ます

柴又帝釈天参道  
寅さんが出て来そう



柴又帝釈天の境内  
歴史を感じます

鈴木義則 のページ

早春を彩る庭の



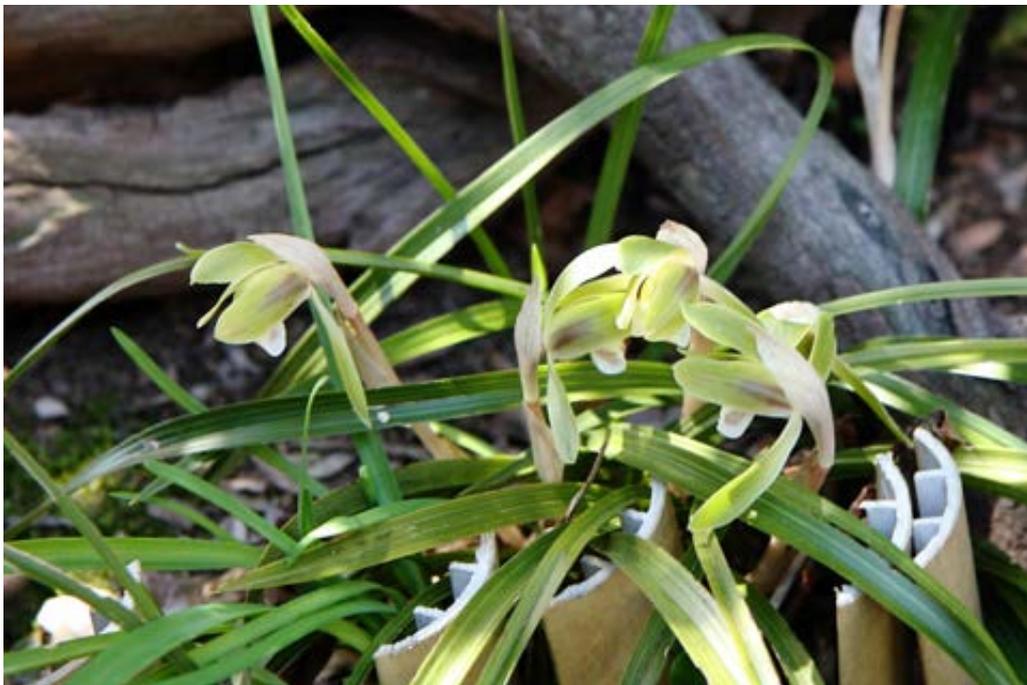
ピンクの花桃、春らしい華やかさがある

同じく白の花桃、淡さが目立つ



ヒイラギ南天の花、葉のとげに比べて可愛らしい

雨上がりの雪柳の花、  
水滴で花が下を向いて  
しまった



日陰に咲く春蘭、野  
生のため色が地味

クリスマスローズ、切  
り花にして表情を作る



白岩のページ



ナマコ壁 (下田)



坂本 龍馬 : 唐人お吉の菩提樹 (宝福寺)



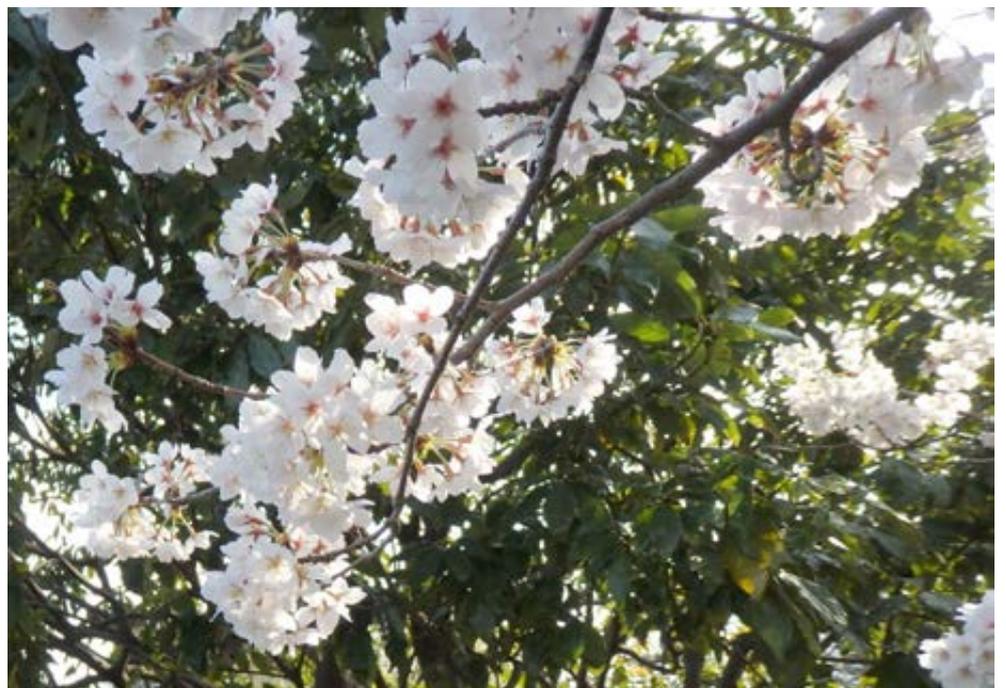
北の丸公園



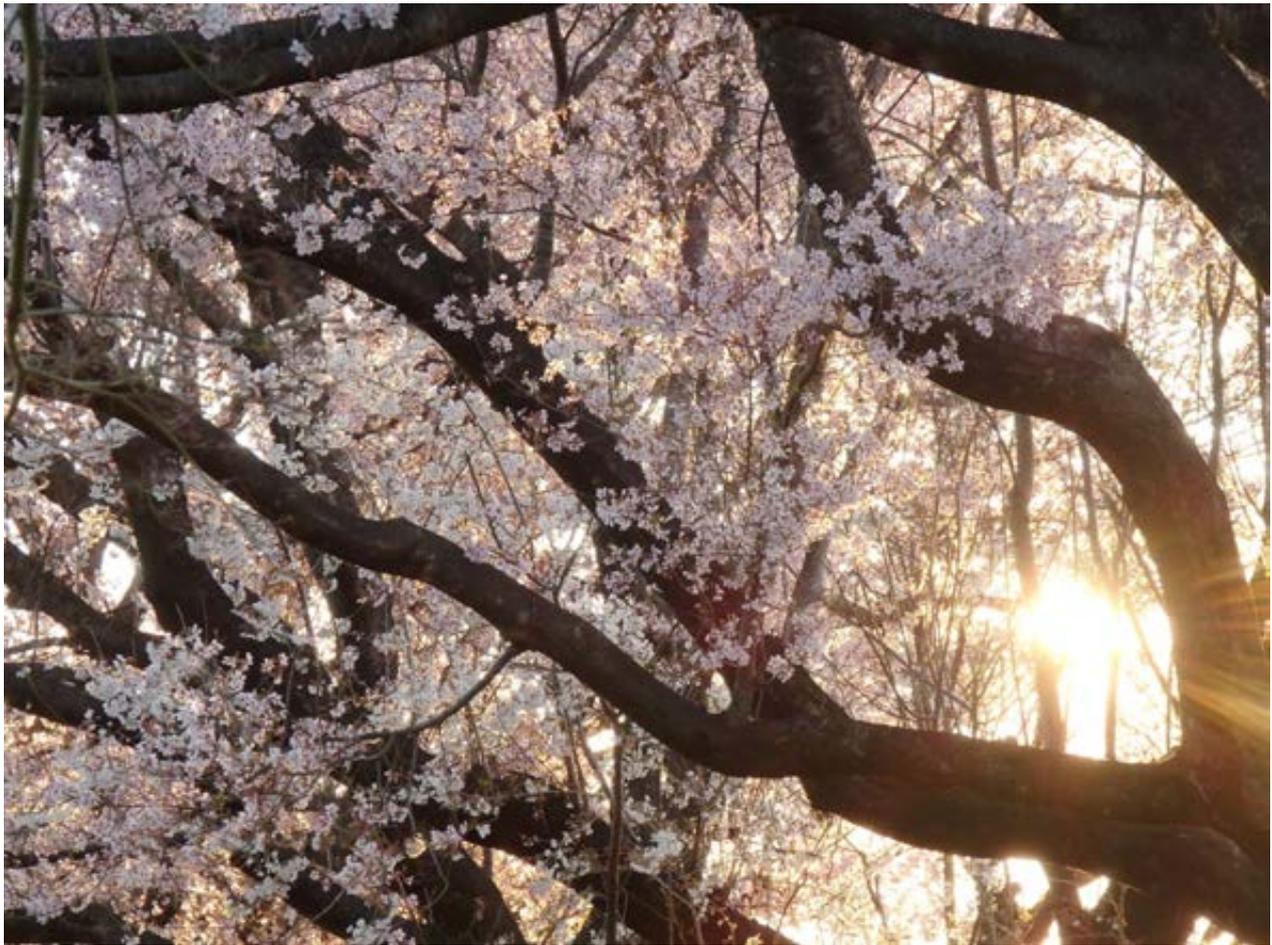
千鳥ヶ淵のお花見

# 佐藤重信のページ

ようやく春到来！  
相模原公園はチューリップ、シャクナゲ色とりどり



春日台の桜公園を朝日が照らす



## 笹原虎夫のページ

### 身近な野鳥



**お魚ゲット**  
(アイキャッチはお預け)

**一休み**  
キセキレイの枝止まり



**ウグイスの餌探し**

# カタクリの里 風景



カタクリさん兄弟

楚々とした姿



白花カタクリ

# 大川のページ





鈴木瑠美子 のページ

## 小田原フラワーパーク（春の撮影会より）

しだれ梅と鉄塔



伸びた枝と小さな流れ





咲き誇る白梅

人影が少なく鴨  
ものんびり



湖面に浮かぶ Twin  
tower

別府 3 1 - 4 月写真

2 月小田原の撮影会にて



